



2020年度 付中通信第14号

遠足の島の魅力

2020.12.22 (火)

高水高等学校附属中学校長 宮本 剛



上の写真は、11月2日に実施した恒例の30km遠足の一コマです。今年は周防大島コースでした。「道の駅サゼンセトとうわ」を起点にしてJR大島駅までの道のりを計画していました。コロナ禍なので周辺住民への配慮等打ち合わせて臨みましたが、当日はあいにくの雨天。天気の変り変わりが悪いほうに少しずれて、雨は最後まで上がってくれませんでした。

急遽(きゅうきょ) 起点を大きく変更し、歩く距離を3分の1にして、決行としました。雨合羽は全員携行させていたので、衣服が濡れる心配はありませんでしたが、歩きにくいことこの上ない。しかも島は観光地としてコロナ禍にあっても交通量は驚くほど多いのでした。安全第一でなるべくみんなで固まって移動するように誘導しました。雨の中の遠足もよい思い出になってくれたらと思うばかりでした。

さすがに、この距離ですから、難なく全員完歩。これが一番の目標だったので、校長としては満足だと言っておきます。

今、島の交通量の多さに触れましたが、当日は休日でも何でもないので、観光地という理由ではこれを説明しきれません。島ではこの度、町長選挙があり新町長が信任されたばかりです。周防大島は12年ほど前に旧4町が合併して1町1島1郡となり、前町長が島の振興策を打ち出し、それまで日本一の高齢化率とおとぎ話のように謳われた島を、全国有数の移住者の集まる島に変えたことで有名です。

実はそんなことで有名だと言った人と私はまだ出会ったことがないので、それは私の勝手な憶測であると同時に、島に友人をいくらか持っている私自身の実感です。日本全国で移住

先を探している人たちは、定年退職後という人たちよりも、30代半ばの、都会での生活をひと通り経験し、ある程度の世間知もわきまえた世代が多いようです。その地域にとっては頼りがいがある、地域を活性化できそうな人たちだということと言えます。

島はほとんど一年中、都市部からの修学旅行生を受け入れています。中国新聞は町政と結びついているのではないかと、島の記事がや



たら多いと思うのですが、修学旅行生の民泊のこともよく載ります。今年はコロナ禍で旅行そのものができなくなって、この民泊事業も一段落といったところです。民泊する中高生の受け入れは、もちろん島の住人が町の登録制度に基づいて行っています。この中には多くの移住者の家族も含まれています。

とは言え、前町長はどうやって移住者に選ばれる島にしたのでしょうか。島が移住先に選ばれる理由はたぶん一つではなくて、いろいろな要素がうまく組み合わさって、都会まで届くような魅力、人生をリセットし新しい価値観で生きていけそうな予感を、この島は甘く匂わせているのではないのでしょうか？

一つ教えてもらって、感心したアイデアがあります。移住先ではなくて、関東関西の中高校がこの島を修学旅行の民泊先に選ぶ理由は何だと思えますか？

民泊だけの修学旅行では、学校関係者は何かもの足りなさを感じるでしょう。確かに島は農林魚業を昔ながらの装いと語り口で実体験させてくれるだろうし、民泊先での素朴なふれあいや出会いに満ちているとは思いますが、それだけでももしかしたら十分意義ある旅行が成立するかもしれません。しかし、教育関係者はもっと修学というにふさわしいプログラムを望みたくりますよ、きっと。

どうやら、島の民泊は広島での平和学習の延長線上に仕組まれているようです。これならだれも不服を言う人はいないのではありませんか。